

**このファイルは、当社が
2016年4月1日～2017年3月31日
(2016年度47期)の
「エコアクション21」に従って編集した
環境活動レポートです。**

**ご理解とご支援を賜いますよう
お願い致します。**



2017年8月1日

**株式会社 セルコ
代表取締役 社長 小林 延行**

2016年度（2016年4月より2017年3月：47期）

環境報告書

ご挨拶

このところ、地球温暖化の影響に依る異常気象に依る災害が相次いでおります。この現象は日本のみならず、世界各地に広がっております。

人類が排出した地下資源燃焼に依るCO₂が地球温暖化を促進させ、その結果、南極の永久凍土が溶けだし、その永久凍土にとじ込まれていた非常の濃度の濃いCO₂が大気に放出され、更に温暖化が進み、また氷を溶かすという悪循環が止まらない状態が続き、さらにこの異常気象は加速して行きます。

そんな危機的状态にも拘らず、世界の経済大国アメリカのトランプ大統領は自国の利益を優先するためにパリ協定離脱を表明し、中国、インドを始めとする発展途上の国々は、これから大量のエネルギーが必要となるため、益々これから温暖化が進むかと思われま

す。そんな中で、イギリス、フランスは相次いでガソリン車、ディーゼル車を2040年迄に禁止しEV化の促進を促そうとしております。

これから私たちができることは、人間の英知によってこの大変な状況を少しでも改善することではないでしょうか？

当社の高密度コイル技術は間違いなくこのEV車等のモーターの効率化に貢献します。

私達セルコは、この高密度技術をさらにブラッシュアップすることにより、少しでも地球環境に貢献できるよう努力して行きたいと思っております。



環境理念・方針

< 1 > 環境経営理念

永続した世界の繁栄と幸福のために、地球環境と調和した企業活動を行う。

< 2 > 環境基本方針

- ① 地球環境と調和する製品の開発に努める。
- ② 環境に与える影響を最小限に抑えた生産活動に取組み推進する。
- ③ 環境に関する法律を遵守し、行政の指導及び要請に積極的に対応する。
- ④ 環境教育および啓発活動を積極的に行い、全従業員で地球環境保全に取り組む。

『スローガン』

地球環境保全のため、自ら持てる技術力と創造力を遺憾なく発揮し、環境との調和を図り、人類の繁栄を目指す。

< 3 > 環境方針

株式会社セルコは、環境基本方針のもと、環境と生産活動の調和のため、以下に掲げる施策を知恵と創造力と行動力で推進し、地球的自然環境の保全に貢献する。

1. 省エネ、高効率、高性能の製品を造り、社会に貢献する。
2. 有害化学物質による環境汚染および生物への悪影響を防止する。
3. 生産活動による環境負荷を最小限にし、グリーン調達を推進する。
4. 法の遵守はもとより、地域や顧客の環境要求を受け入れる。
5. 従業員の環境意識向上に努め、工場全体で継続的な環境改善活動を行う。
6. 地域社会とのコミュニケーションを大切にするとともに、地域における環境保全に係わる活動に勤める。

< 4 > 環境方針の公開

本環境方針は、求めに応じ、制限無く公開する。

2006年4月20日
2017年5月6日見直し
株式会社 セルコ
代表取締役社長
小林 延行

1. 事業活動の概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社セルコ

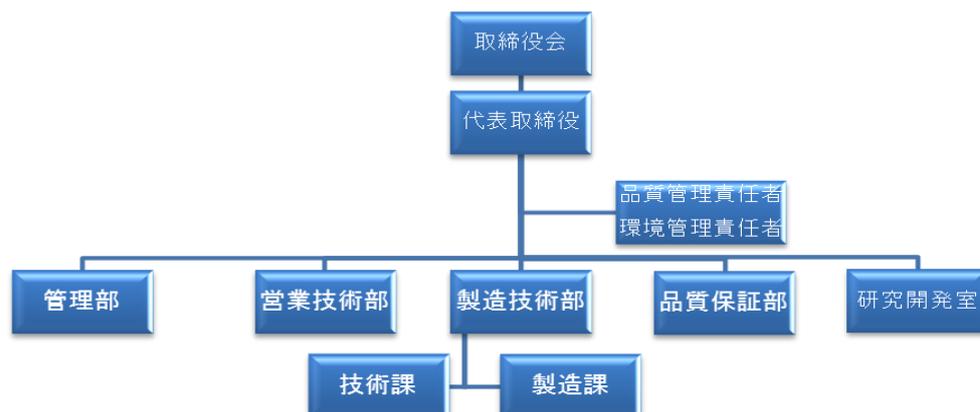
代表取締役 小林延行

2) 所在地

長野県小諸市大字御影新田 2130-1

3) 組織と対象範囲（全組織・全活動を対象範囲とする）

株式会社 セルコエコアクション 21 組織図 （2016年4月1日 現在）



4) 環境保全関係の責任者及び担当連絡先

環境管理責任者（代表取締役） 小林延行

連絡先 電話 0267-23-3322

FAX 0267-22-2233

5) 創業

1970年7月29日

6) 資本金

4,000万円

小型コイル製造を中心とした下記の事業内容

コイル加工（コイル巻線）

プラスチック射出成形（精密コイル成形）

組立・アッセンブリ（コイルに付随する組立）

新製品（コイル機能を持つ新製品開発）

| | 単位 | 2015年度 | 2016年度 |
|--------|----------------|----------|---------|
| 売上高 | 百万円 | 1164.24. | 1271.14 |
| 月平均売上高 | 百万円 | 97.02 | 105.92 |
| 従業員数 | 人 | 約40 | 約30 |
| 延べ床面積 | m ² | 3,100 | 3,100 |

2. 中期環境目標

「表1 環境改善中期目標」参照

表1 環境改善中期目標

| | 改善目標項目 | 2014年度実績 | ※2015年度目標 | ※2016年度目標 |
|---|-------------------------|----------|----------------|----------------|
| 1 | 売上目標（百万円） | 664 | 1,000 | 1,000 |
| 2 | 使用電力量（MWh） | 186.4 | 271以下 | 266以下 |
| 3 | 二酸化炭素排出量（トン） | 100.3 | 148.8以下 | 145.8以下 |
| 4 | 製品不良金額（千円） | 2,222 | 2,070以下 | 1,300以下 |
| 5 | 一般廃棄量の削減（Kg） | 2,600 | 3,900以下 | 3,900以下 |
| 6 | 高効率製品の受注 | 受注 | 平角、丸線、高密度製品の受注 | 平角、丸線、高密度製品の受注 |
| 7 | 水道水の削減（m ³ ） | 298 | 454以下 | 454以下 |
| 8 | ソーラーパネル 屋根貸事業 | 立ち上げ | 維持管理 | 維持管理 |

3. 2016年度環境目標と実績

2016年度は売上高が前年比109%と伸び、目標に対する影響が懸念されたがおおむね達成できた。電力については工場天井エアコンの不具合により、夏季の消費電力が増えてしまったが、空調設備も省エネエアコンへと順次切り替え、下期では効果が出ている。製品不良は、高額製品の不具合が発生し目標金額を達成できなかった。

1) 2016年度 環境活動目標と実績評価結果

2016年度の実績と評価を「表-2 環境改善目標と評価結果」に掲載した。

表2：環境改善目標と評価結果 2016年4月1日より2017年3月31日

| | 改善目標項目 | 2016年度目標 | 2016年度実績 | 実績評価 |
|---|-------------------------|----------|----------|------|
| 1 | 電力の削減（MWh） | 266以下 | 193.8 | 達成 |
| 2 | 二酸化炭素排出量（t） | 145.8以下 | 76.50 | 達成 |
| 3 | 製品不良金額の低減（千円） | 1,300以下 | 2,067 | 未達成 |
| 4 | 一般廃棄量の削減（Kg） | 3,900以下 | 2,881 | 達成 |
| 5 | 水道水の削減（m ³ ） | 454以下 | 576 | 未達成 |
| 6 | 高効率製品の受注 | 受注 | 受注 | 達成 |
| 7 | ソーラーパネル 屋根貸事業 | 維持管理 | 維持管理 | 達成 |

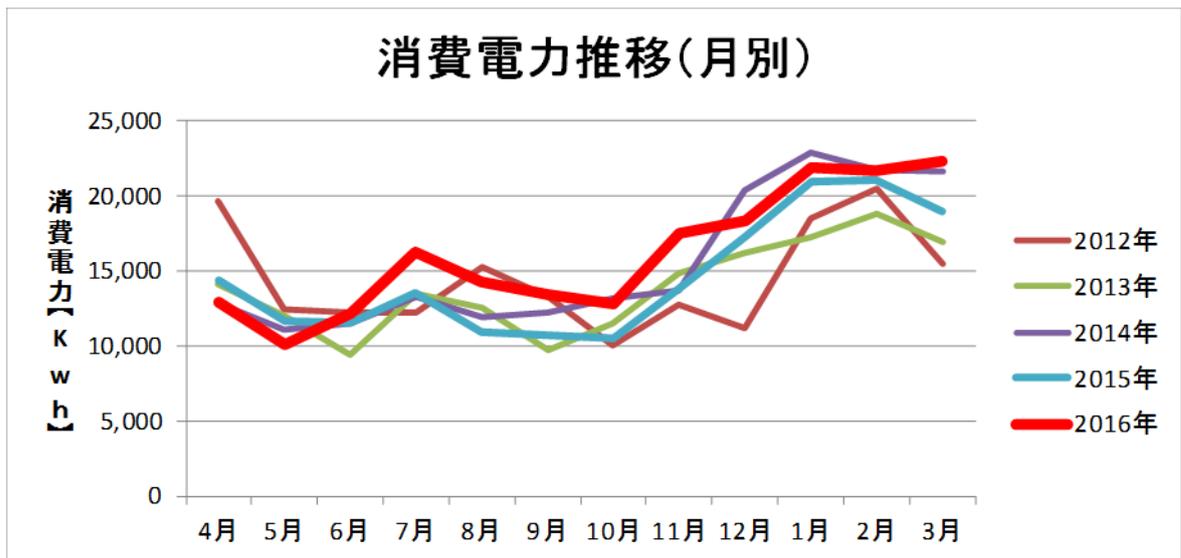
※二酸化炭素排出量：電力は日本テクノ(株)二酸化炭素排出係数 0.358 (kg-CO₂/kWh)
灯油 0.067 (kg-CO₂/MJ)、ガソリン 0.0671 (kg-CO₂/MJ) で算出

2) 活動実績

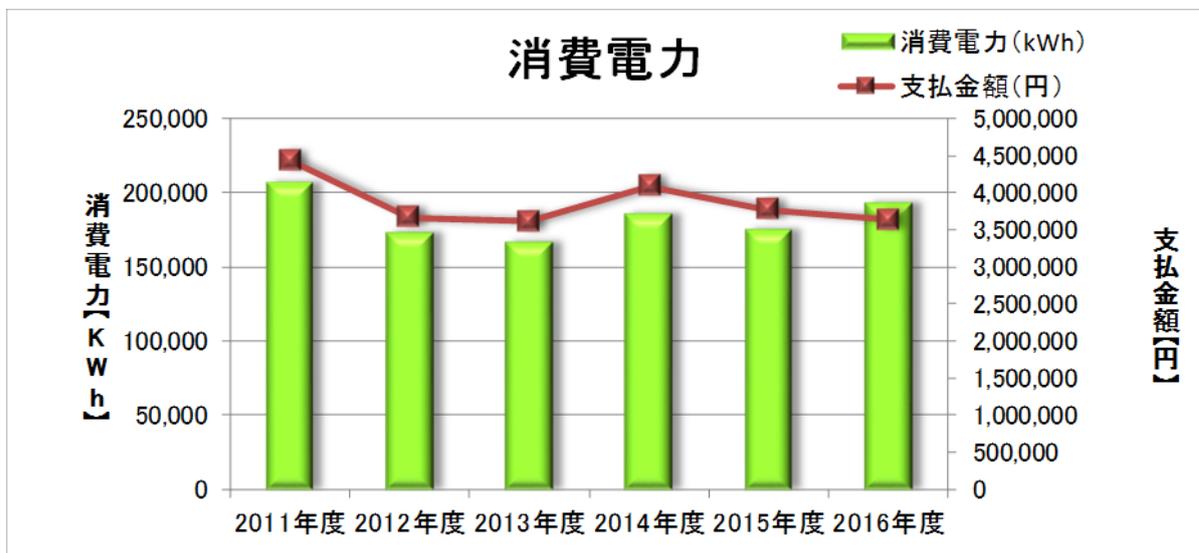
(1) 電力の削減

工場天井空調設備が老朽化による故障により、一部の設備に負荷がかかり夏季は消費電力が増えてしまったが、前年比11%増となった。

図－1－1 および図1－2 参照。



図－1－1 月別消費電力量の推移



図－1－2 年間消費電力、支払金額推移

(2) 製品の不良率の低減

売上増の状況下、385千円（前年度比18.6%）低減できたが、目標1,320千円に対し1,685千円と達成することができなかった。

新人作業者によるミス、不良解析の不徹底さが露呈している。

図-2「製品不良金額の推移」参照。

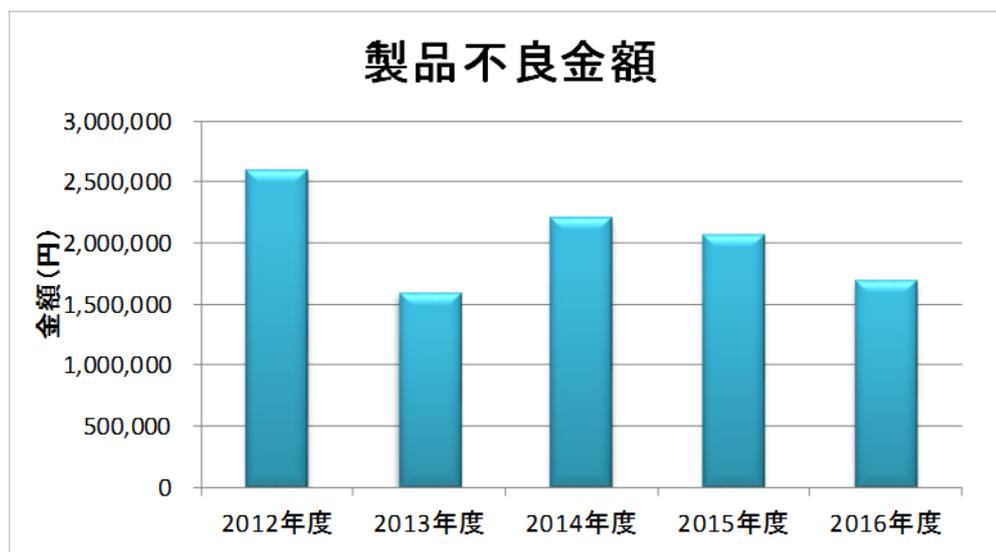


図-2 製品不良金額の推移

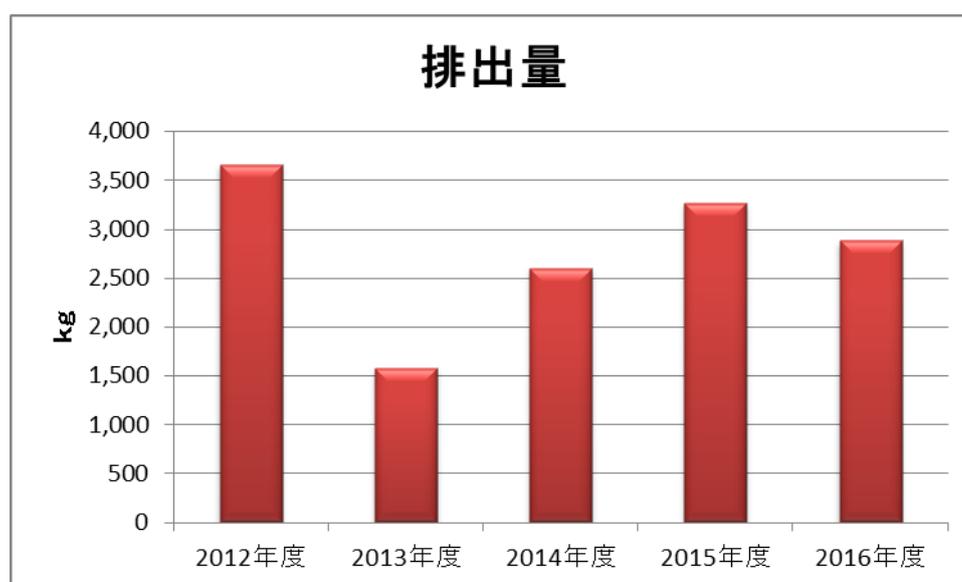
(3) 排出量の削減

目標値3,900kg以下に対し、2,880kgの結果となり目標を達成した。

売り上げ増に伴い物流が増えているが、納入品に対し通い箱を取り入れたり、協力工場共に対応を進め、前年より約15%削減できた。

「図-3 排出量の推移」参照

図-3 排出量の推移



(4) 水道水の削減

節水の啓もう活動として、表示類が整備された。しかし、冬季に水道管の凍結による漏水が発生し、前年より水道使用量が増えてしまった。

目標 4 5 4 m³ に対し、5 7 6 m³ と未達成となった。

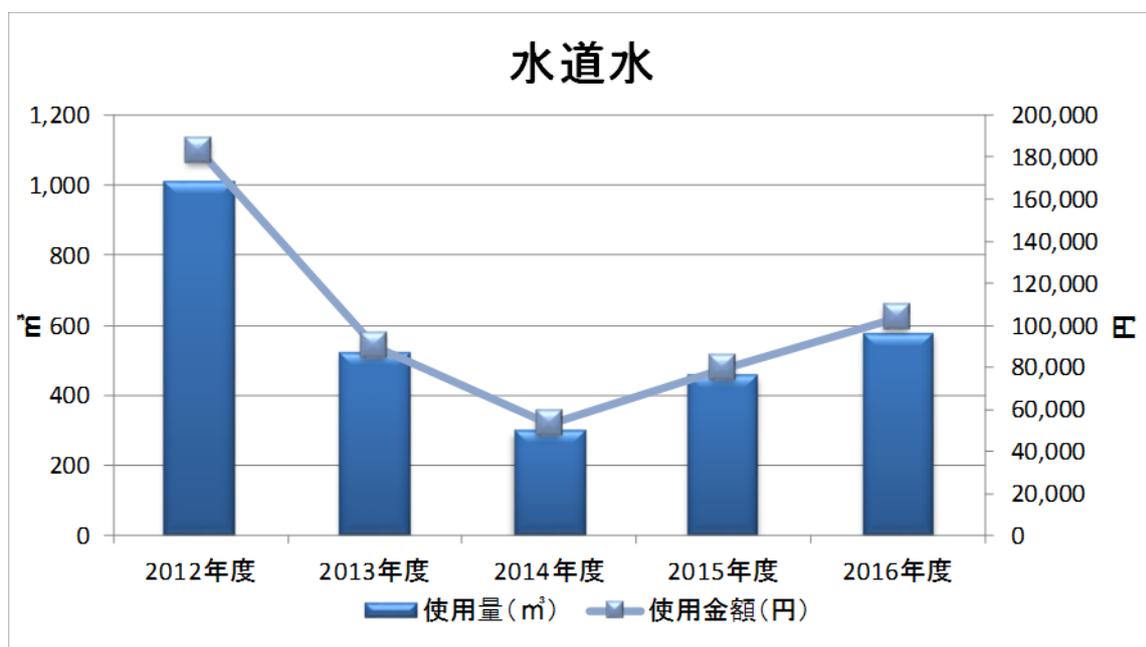


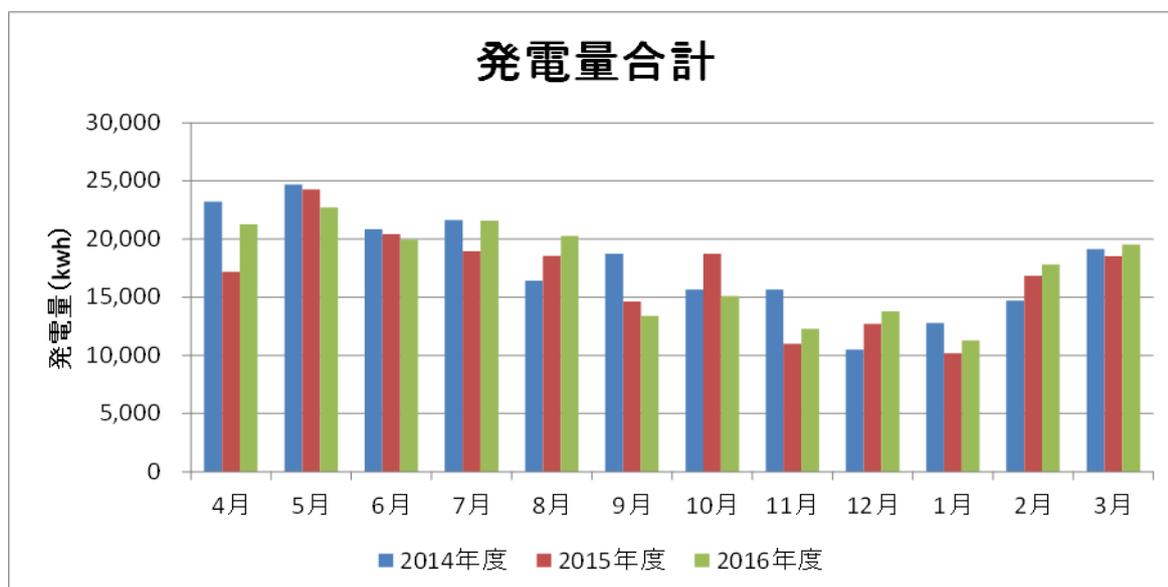
図-4 水道水使用量と使用金額の推移

(5) 高効率製品の受注

省エネ設備が引き続き好調。中国を中心に工場ロボット化の受注が増えており、高効率設備に当社コイルの利用が増えている。

(6) ソーラーパネル屋根貸事業

発電量は天候に左右されるが毎月発電量を確認し、設備異常がないか確認を行った。発電量は昨年度比 103.4% であった。



4. 4 8 期（2017年度）環境目標取り組み内容

- ・電力の削減

当社2階の老朽化した空調設備を省エネ設備に切り替えていく。

- ・二酸化炭素排出量削減

エコカーの活用や製造部屋の断熱を高め、電力の削減と併せて削減を進める。

- ・製品不良金額の削減

日々の工程不良品解析と巡回検査のフィードバックによりPDCAをまわし、製品不良金額を削減する。

- ・ゴミ廃棄量の削減

引き続き輸送の効率化（輸送回数の低減）や通い箱採用などの梱包仕様の変更などで廃棄量低減を行う。

- ・水道水の削減

水道メーターの確認を細目に行い、漏水のチェックをする。引き続き節水の啓もう活動を進めていく。

- ・高密度、高効率製品の受注

当社の高密度、高効率コイルは、省スペース、省電力、高効率化に優れており、各社より問い合わせや、横展開による試作・量産案件も増えてきている。そのため、研究開発段階より参画し、試作、量産受注へと結び付けて行く事とする。

- ・ソーラーパネル屋根貸事業

発電量を監視する事で設備異常が無いか確認し維持管理を行う。

5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社は、過去10年間近隣や関係行政機関、及び顧客からの指摘や指導、訴訟等はありませんでした。また、当社 環境管理責任者（小林延行）が中心となり、関係法令を改めてチェックした結果も、違反はありませんでした。

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規および遵守状況は、表3「適用環境法律と遵守状況」の通りです。

表3 適用環境法律と遵守状況

| 適用法律名 | 対象設備及び内容 | 法律遵守 |
|----------|-------------------|------|
| 廃掃法 | 適切処置 | 適法 |
| 消防法 | 灯油タンク（220リットル）届け出 | 適法 |
| 浄化槽法 | 浄化槽 | 適法 |
| 労働安全衛生法 | 化学物質取り扱いその他 | 適法 |
| 劇毒物取締り法 | 取り扱い、表示等 | 適法 |
| フロン排出抑制法 | 2015年4月施行。設備定期点検 | 適法 |

6. 経営者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21の活動を始めてからちょうど10年を迎えました。当社としましては、この活動に依るエネルギー消費量の削減が経費節減へとつながり、事業経営にも大いに役に立ってきたかと思えます。

しかし逆に10年経ちますと、これまでの普通の活動のみではその先の成果は得ることができません。

今後はさらにこの活動を、社員一人一人の意識レベルまで落とし込むようなものに発展させて行って欲しいと思えます。

最終的に、私は環境問題も、品質問題も「5Sの徹底」に帰結するものと思っております。5Sの場合は、従業員一人一人がその気にならなければ、完結できません。

今回の「SC運動」により、そういうことが可能になるのではないかと大いに期待しております。